

## 櫛引地域まちづくり未来事業一覧

(単位：千円)

No.	事業名	事業内容	R2当初 予算額	事業 期間
1. 果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり				
1	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	担い手確保やブランド化等の課題解決に向けた「果樹産地強化プラン」の策定と、関係機関が一体となった取組みによる産地強化を図る。	3,300	H31～
2. 農業自然体験に着目した都市農村交流の推進				
2	都市農村交流促進事業	横浜青木小との交流、農家民宿の活動などを通じて、交流人口の拡大や農産物の販路拡大などを促進する。	274	H31～
3	たらのきだいのネイチャーパーク事業	櫛引たらのきだいのスキー場とほのかたらのきだいの機能を見直し、利用拡大など活性化と、行革の観点からの在り方を検討する。	1,900	H31～
3. 地域を越えて連携する広域観光圏の形成				
4	鶴岡市南部地域広域観光二次交通網整備	市南部地区（櫛引、朝日、黄金等）との広域観光連携を推進するための、観光商品の開発提供、エージェントとの連携強化、観光客の二次交通輸送システムの構築	-	R1～
4. 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進				
5	伝統芸能アーカイブ事業	黒川能の映像・音声データのデジタル化保存と伝承活動への活用を図る。	324	H31～R3
6	黒川能保存伝承支援事業	保存伝承研修会（講演）開催支援や東小児童仕舞い指導による担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援を行う。	2,868	H31～
7	能楽青年交流事業	首都圏大学等の能楽合宿誘致による黒川能PRと若手能役者との交流、黒川能伝習館の有効活用などを図る。	400	H31～R3
8	丸岡城跡環境整備事業	利用拡大のため大型バスでの来訪等にも対応できる駐車場の整備 ※社会教育予算での実施	10,288	R2
9	櫛引綴れ織り文化保存事業	故遠藤虚籟の顕彰と櫛引綴れ織りの保存継承と認知度を高めるための情報発信等を支援する。	238	H31～
5. コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進				
10	櫛引地域デマンドバス導入事業	高齢化社会の住民ニーズに沿った既存の公共交通を補完する新たな地域公共交通システムの構築	2,351	H31～
11	くしびき若者未来創造事業	地域の若者を対象とした研修や討論を通じてまちづくりへの若者の参画を図る。	261	H31～
12	希少淡水魚保存事業	絶滅危惧種イバラトミヨの種の保存と、公開展示等による保護意識の高揚を図る。	133	H31～
13	花いっぱい運動で環境美化推進事業	住民協働による市推奨花サルビア植栽活動で、美しく住みよい生活環境づくりを支援する。	350	H31～
14	くしびき夏のイベント推進事業	水焰の能と連日開催する「くしびき夏祭（JA、商工会、工業団地連絡協議会等による実行委員会が運営）」に地域の賑わい創出として運営を支援する。	360	H31～
	「でわ宝」で地域おこしプロジェクト(仮称)事業	地域おこし協力隊の退任に伴い、事業の継承と、宝谷地区集落ビジョンのブラッシュアップを図るなど、地区住民が主体となり地域活性化に向けて実施する取り組みに対処し支援する。	新規	R3～
15	櫛引地域交通安全・防犯の日啓発事業	交通安全啓発として30年以上続いてきた毎月1日の「交通安全の日」の小旗掲揚について、新たに防犯啓発の内容も加えて小旗を更新し、チラシ等での周知により運動を促進	完了	H31
16	櫛引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業	既存の補助事業等の活用により、地区の意向に沿った高齢者の活動拠点が設置できるよう地区に対する側面支援（相談・指導・情報提供など）を行い、高齢者が安心して生活できる地域づくりを推進	予算の伴わない事業として実施	R2～
17	「空にける階段」インフォメーション事業	鶴岡市名誉市民である彫刻家富樫実氏の作品を紹介するブース設置と市内の作品群回遊の仕組みづくりを実施し、顕彰と地域の活性化を図る。	160	H31～
18	櫛引地域の情報発信事業（櫛引PR事業）	フルーツ関連に特化した情報として、くしびきフルーツ振興プロジェクト事業の情報発信に組み込む（統合する）こととする	-	H31～
19	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	赤川かわまちづくり計画（R2～R9）と連携した、櫛引赤川エリアの橋梁、管理道路の更新や馬渡の桜並木、レンタサイクル、遊具等の整備	-	R2～R9
20	山添校跡地の子育て活用構想	山添校跡地の利活用について県に確認、調整していくとともに市としての活用方法を探る。	-	R3～

R2予算額合計 23,207 千円

櫛引地域まちづくり未来事業の進捗状況一覧(令和2年度予算計上事業)

総合計画	No	事業名	事業内容	R2 予算額	R2計画	進捗状況(新型コロナウイルスの影響)
果樹産地の特色を生かしたフルーツの里づくり	1	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	担い手確保やブランド化等の課題解決に向けた「果樹産地強化プラン」の策定と、関係機関が一体となった取組みによる産地強化を図る。	3,300	・産直めぐり周辺への果樹園等施設整備に向けた構想は繰り延べ ・櫛引産業振興プロジェクト推進協議会に「園地継承・担い手」「産地づくり・ブランド力強化」「プロモーション」の委員会を設置して強化プラン等を検討	・各委員会の資料作成に留まっており、8月～10月にかけて2回程度の委員会を開き意見交換を実施 ・推進員の配置により、「フルーツ日記」等SNSでの情報発信、ふるさと納税の取組みを実施
	2	都市農村交流促進事業	横浜青木小との交流、農家民宿の活動などを通じて、交流人口の拡大や農産物の販路拡大などを促進する。	274	・JAの青木小での稲作出前授業や修学旅行の受入れ ・農家民宿グループ「黒川能の里の会」の研修支援	・青木小の稲作出前授業、修学旅行の受入れは中止 ・農家民宿の受入については当面ほぼ自粛。メニュー開発等の研修は今後実施
農業自然体験に着目した都市農村交流の推進	3	たらのきだいのネイチャーパーク事業	櫛引たらのきだいのスキー場とほのかたらのきだいの機能を見直し、利用拡大など活性化と、行革の観点からの在り方を検討する。	1,900	・遊歩道整備等夏場集客の整備は取りやめ ・RGB照明の整備(老朽化したナイター照明の更新) ・類似体験型施設の管理者と連携に向けた検討	・RGB照明整備工事にに向けた準備業務を実施 ・類似体験型施設の管理者との検討会を計画実施 ・「ほのか」の処分制限解除によるあり方検討
	4	伝統芸能アーカイブ事業	黒川能の映像データのデジタル化による保存と伝承活動への活用を図る。	324	・検討委員会の開催とDVD/CDデジタル化 ・伝承活動への貸出開始	・今年度分のDVD/CDデジタル化の準備業務を実施 ・貸出に向けた準備業務を実施
黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進	5	黒川能保存伝承支援事業	保存伝承研修会(講演)開催支援や東小児童仕舞い指導による担い手育成、黒川能保存会運営補助金による支援を行う。	2,868	・東小児童への指導 ・黒川能保存会運営補助金の交付 ・体験メニューの検討と運用	・東小児童への指導回数が減少 ・保存伝承研究会の開催の可否判断 ・体験メニューの協議と着付け体験の周知・運用支援
	6	能楽青年交流事業	首都圏大学等の能楽合宿誘致による黒川能周知と若手能役者との交流などを図る。	400	・能楽合宿の誘致と交流 ・農家民宿の利用促進	・事業中止の方向
	7	丸岡城跡環境整備事業	利用拡大のため大型バスにも対応できる駐車場を整備する。	10,288	・駐車場の整備	・用地取得、所有権移転完了。設計業務委託を実施。11月着工予定、年度内完成
	8	櫛引綴れ織り文化保存事業	櫛引綴れ織りの保存継承と認知度を高めるための情報発信等を支援する。	238	・継承者の虚籟庵と地元顕彰会との協議 ・情報発信のためのパネル製作等の支援	・事業主体となる遺蹟顕彰会との協議実施 ・情報発信のためのパネル製作等を支援
コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	9	櫛引地域デマンドバス導入事業	高齢化社会の住民ニーズに沿った新たな公共交通システムの構築を図る。	2,351	・関係機関、交通事業者等との事前協議 ・試験運行に向けた手続きと実施	・地域振興課との協議実施 ・庄内交通との事前協議実施 ・松根線の廃止代替としてシステム再検討
	10	くしびき若者未来創造事業	地域の若者を対象とした研修や討論を通じてまちづくりへの若者の参画を図る。	261	・まちづくりへの提言と参画 ・若者のグループ化の検討	・継続活動につながる仕組みで再構築 ・研修等を計画
	11	希少淡水魚保存事業	絶滅危惧種イバラトミヨの種の保存と、公開展示等による保護意識の高揚を図る。	133	・生息池の借上げ、地下水ポンプの維持 ・イバラトミヨの展示公開	・生息池の借上げ、地下水ポンプの維持 ・イバラトミヨの展示公開を実施
	12	花いっぱい運動で環境美化推進事業	住民協働による市推奨花サルビア植栽活動で、美しく住みよい生活環境づくりを支援する。	350	・櫛引花と緑の会の活動支援 各集落花壇での花いっぱいコンクール 国道沿線へのサルビア植栽	・国道112号へのサルビア植栽の実施 ・第40回花いっぱいコンクールの計画実施
	13	くしびき夏のイベント推進事業	くしびき夏まつり(JA・商工会・櫛引観光協会による実行委員会)に地域の賑わい創出として運営を支援する。	360	・第10回くしびき夏まつりの開催(水焰の能の舞台有効活用)	・事業中止
	14	「空にかけける階段」インフォメーション事業	鶴岡市名誉市民である彫刻家富樫実氏の作品を紹介するブース設置と市内の作品群回遊を促し、顕彰と地域の活性化を図る。	160	・関係者懇談会の開催 ・櫛引生涯学習センターへの作品展示 ・紹介パネルとyoutube映像の検討	・櫛引生涯学習センターで作品の試験展示を実施 ・紹介パネルの作成、懇談会の実施 ・youtube映像の検討

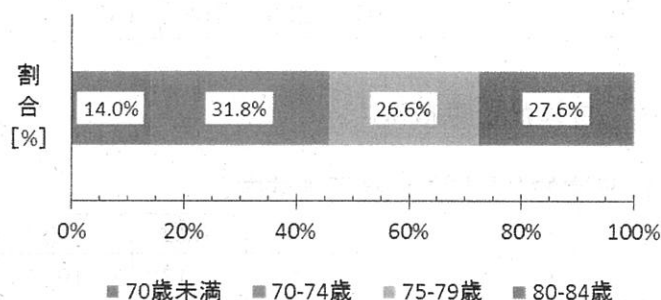
# デマンドバス導入に関するアンケート調査結果

## 1 回答状況

回答のあった世帯数は567世帯、回答数は876件であった。未記入であった1件を除外した結果、回答世帯数は567件（59.5%）、有効回答数は875件であり、有効回答率は発送部数に対して43.2%であった。このうち70歳～84歳の回答は750件であり、調査対象者1,285人に対する回答率は58.4%であった。

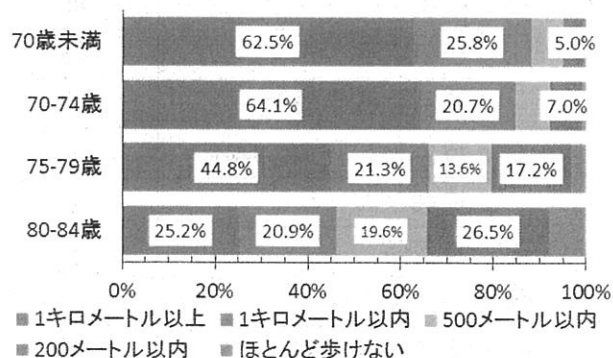
## 2 回答者の年代

年代	人数	割合
70歳未満	122	14.0%
70～74歳	277	31.7%
75～79歳	232	26.5%
80～84歳	241	27.5%
無記入	3	0.3%
合計	875	100.0%



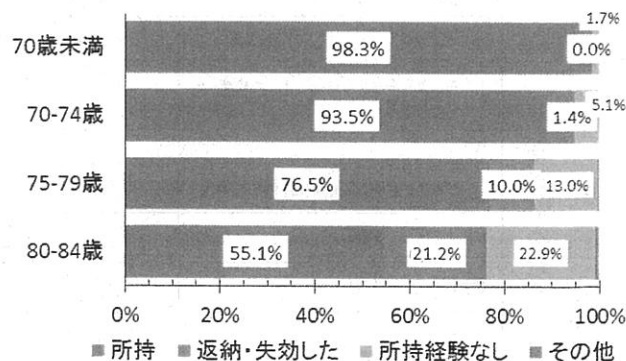
## 3 回答者の歩行可能距離

歩行可能距離	70歳未満	70-74歳	75-79歳	80-84歳
1km以上	75	173	99	58
1km以内	31	56	47	48
500m以内	8	20	30	45
200m以内	6	19	38	61
ほとんど歩けない	0	2	7	18
合計	120	270	221	230



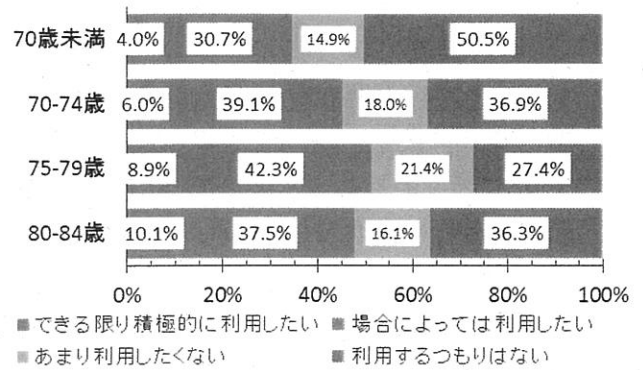
## 4 回答者の運転免許保有状況

免許保有状況	70歳未満	70-74歳	75-79歳	80-84歳
所持	119	258	176	130
返納・失効した	0	4	23	50
所持経験なし	2	14	30	54
その他	0	0	1	2
合計	121	276	230	236



## 5 回答者のデマンド交通利用意向

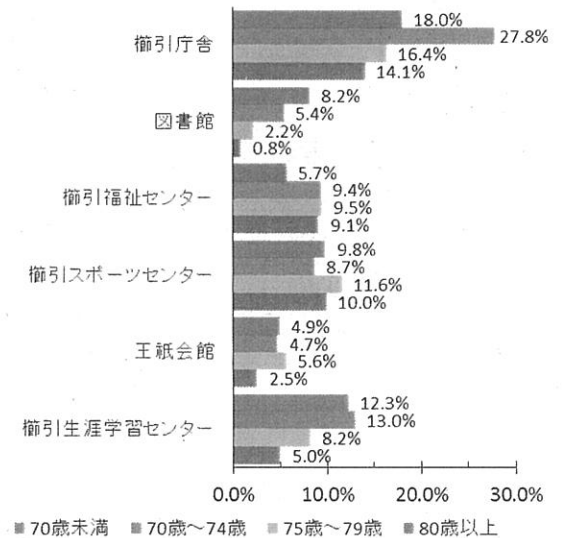
利用意向	70歳未満	70-74歳	75-79歳	80-84歳
できる限り積極的に利用したい	4	14	15	17
場合によっては利用したい	31	91	71	63
あまり利用したくない	15	42	36	27
利用するつもりはない	51	86	46	61
合計	101	233	168	168

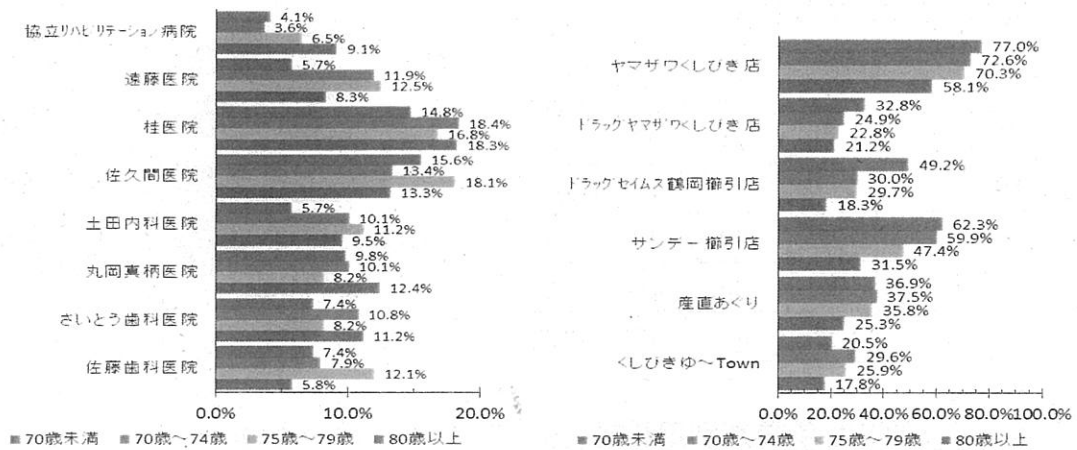


## 6 日常的な訪問先

### ① 日常的な訪問先（櫛引地域内）

区分	訪問先	人数	パーセント
公共施設	櫛引庁舎	173	19.8%
	図書館	32	3.7%
	櫛引福祉センター	77	8.8%
	櫛引スポーツセンター	88	10.1%
	王祇会館	38	4.3%
	櫛引生涯学習センター	84	9.6%
病院・医院	協立リハビリテーション病院	52	5.9%
	遠藤医院	89	10.2%
	桂医院	153	17.5%
	佐久間医院	131	15.0%
	土田内科医院	84	9.6%
	丸岡真柄医院	89	10.2%
	さいとう歯科医院	85	9.7%
	佐藤歯科医院	73	8.3%
商業施設等	ヤマザワくしびき店	600	68.6%
	ドラッグヤマザワくしびき店	214	24.5%
	ドラッグセイムス鶴岡櫛引店	256	29.3%
	サンデー櫛引店	429	49.0%
	産直あぐり	295	33.7%
	くしびきゆ〜Town	211	24.1%





② 日常的な訪問先（櫛引地域外の商業施設）

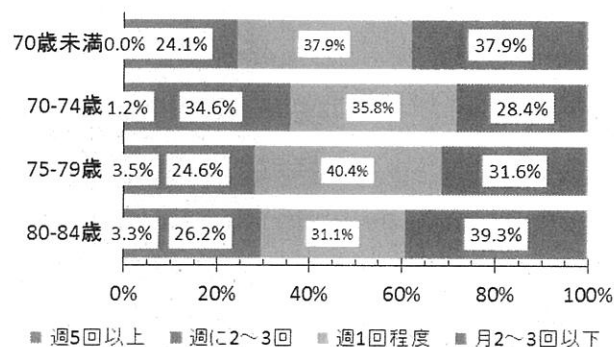
施設名	人数	施設名	人数
主婦の店ミーナ店	135	武田商店	10
マックスバリュ鶴岡南店	79	ジェイ・マルエー	10
コープ千石センター	45	ツルハドラッグ（場所不明）	9
ホームック	45	ヤマザワ	8
カワチ薬品鶴岡東店	40	やまや	7
三川イオン	32	業務スーパー	6
エスマール	27	コメリ鶴岡店	5
こぴあ	23	もんとあーるのぞみ店	5
ムサシ鶴岡店	19	ダイソー	5
生協	14	八文字屋	5

③ 日常的な訪問先（櫛引地域外の医療機関）

施設名	人数	施設名	人数
荘内病院	98	協立病院附属クリニック	8
協立病院	77	ましま内科クリニック	7
黒沢眼科医院	47	斎藤胃腸クリニック	7
中村整形外科医院	41	奥山皮膚科	6
日本海総合病院	28	岡田医院	6
おおかつ眼科	21	石黒歯科医院	6
満天クリニック	21	しょうない眼科	5
石田内科医院	17	みやはらクリニック	5
島眼科医院	17	宮原病院	5
いずみまちクリニック	15	池田内科医院	5
滝沢眼科	13	福原眼科	5
志田整形外科医院	12	木根渕皮膚科医院	5
渡部泌尿内科医院	12		

## 7 デマンド交通の利用頻度

	70歳未満	70-74歳	75-79歳	80-84歳
週5日以上	0	1	2	2
週2-3日	7	28	14	16
週1回程度	11	29	23	19
月2-3回以下	11	23	18	24
合計	29	81	57	61



## 8 デマンド交通の小学校別利用希望者数 (1日あたりの予測値)

学区	下限値	実測値	上限値
櫛引西小学校区	12.86	16.14	19.40
櫛引南小学校区	6.92	8.70	10.46
櫛引東小学校区	10.32	12.95	15.58

## 9 東北公益文科大学からの提案内容

- ① デマンド交通の利用希望者は、櫛引地域に居住する70歳以上の高齢者の11.3%であり、1週間あたりの利用希望者は210名
- ② 利用者は1週間あたり1.00回利用する
- ③ 1日あたりのデマンド交通の利用希望者は10.01名
- ④ デマンド交通の利用が想定される高齢者のうちタクシー利用者は属性により、3.0%~13.0%。ただし、年数回の利用が大半であり、新しい公共交通システム導入による影響は小さい
- ⑤ デマンド交通の利用が想定される高齢者のうち路線バスは属性により、5.2%~16.8%。ただし、年数回の利用が多く、それ以上の頻度で利用をしているのは26名(調査対象者の3.1%)であることから、新しい公共交通システム導入による影響は小さいと考えられる
- ⑥ 櫛引地域内を小学校区で3つに分け、それぞれ週2日運行する
- ⑦ 運行方式は「自宅付近-乗降場所」「乗降場所-自宅付近」「乗降場所-乗降場所」とする自由経路ミーティングポイント型とする
- ⑧ 自宅付近の乗降場所は、自宅から200m圏内をめぐらし、利用者登録時に個別に設定
- ⑨ 1日3便とし、終点は交通結節点である「S-MALL」または「ミーナ」とする。ダイヤの利便性はミーナが高いが、旧鶴岡市内の乗降場所はS-MALLの方が多くなる。実証実験での意見を聞きながら調整が必要
- ⑩ 予約方法は電話の希望が多い。ITは導入せずオペレーターが担当する方式が良い。

## 1 検討経過

- 02/03 調査・提案業務の報告書を公益大より受け取る
- 02/05 素案について地域振興課と内部協議
  - ・路線バス利活用のため域内で運行。市中心部へは乗継ぎで対応
- 02/06 バス事業者との協議
  - ・バス事業者から「松根線について乗車密度が低く、いずれ廃止したい」旨あり
- 02/07 素案の修正
  - ・赤川右岸地域から優先して運行する方向に修正
  - ・松根線の代替機能を持たせる

## 3 事業の方向性

- 地域内の公共交通再編に向けた運行エリア・運行ルートへ計画を見直す。
- バス路線維持が難しくなっている沿線の区域（赤川右岸地域）から運行し、その後赤川左岸区域に拡大する計画に変更する。（現在案は別紙のとおり）

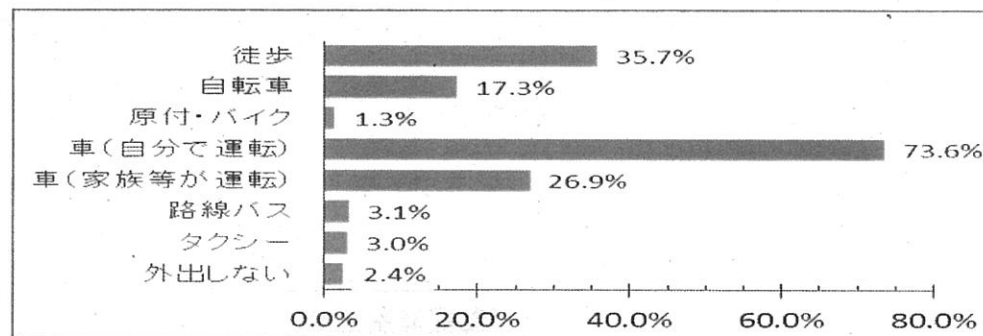
## 4 具体的取組

- バス事業者、タクシー事業者との事前調整
- 集落座談会にて事業内容の説明と意見の聞き取り
- 地域公共交通会議にて正式協議
- 制度の運営を担当する組織の立ち上げ
- 道路運送法の規定に基づく許可申請
- 試験運行（道路運送法上、最長3年）
- 試験運行の課題整理と運用改善の検討

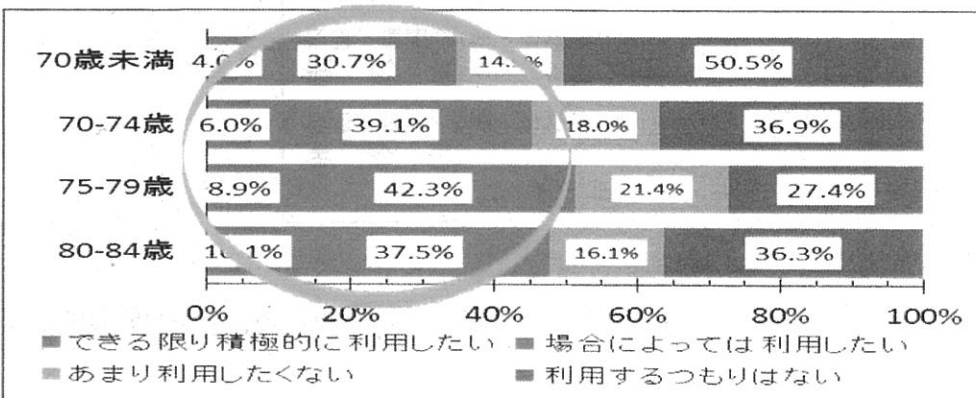
## 2 課題

- バス事業者、タクシー事業者から合意を得られる運行方式でなければならない。
- 面的に広がる地域で、いかに定時性を確保できるか。
- 路線バスに乗継ぎ、市中心部へ向かう場合、乗継ポイントの場所の選定や必要に応じてバス停の整備が必要となる。

## R 1 住民アンケートの結果 調査対象：70歳～84歳とその家族

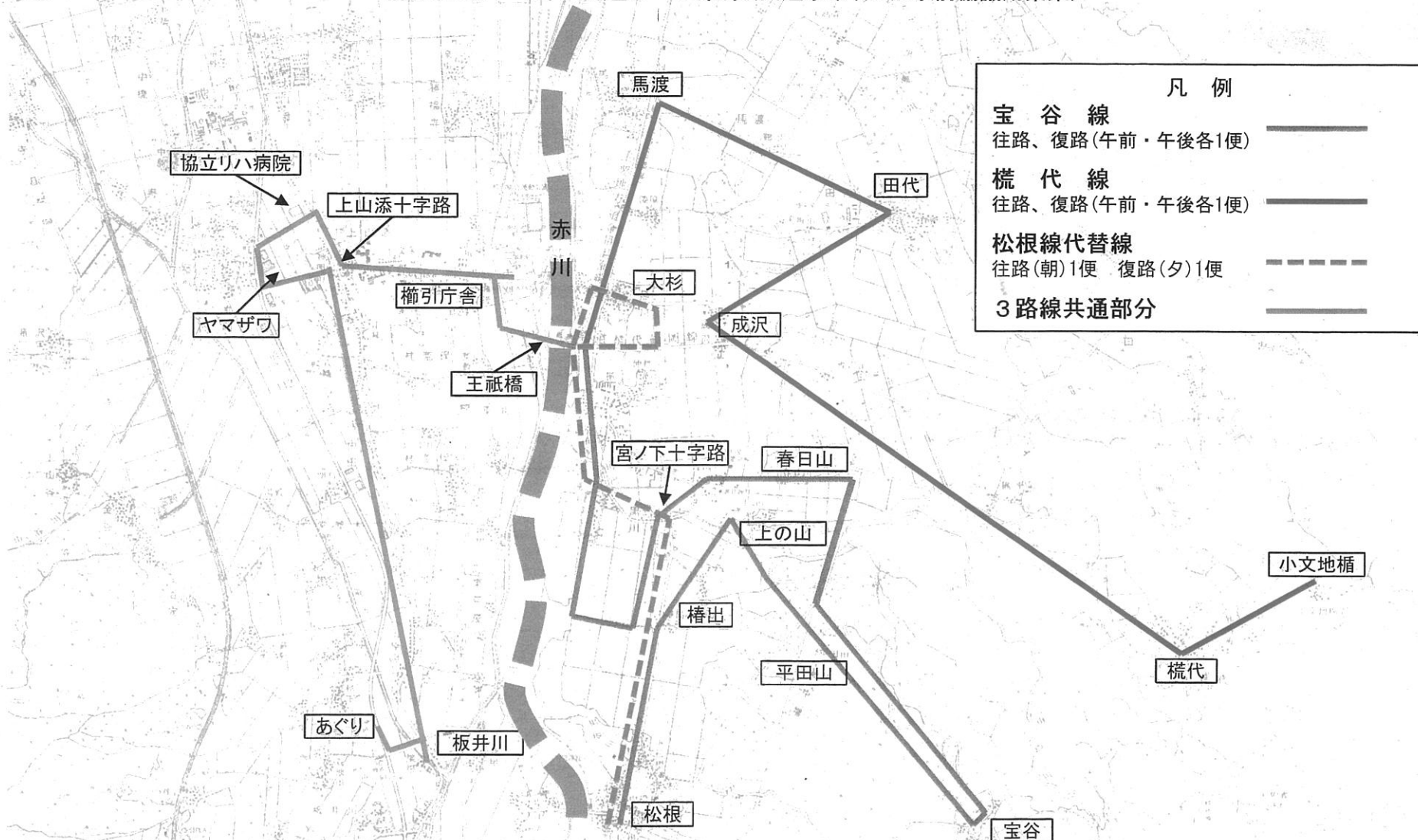


回答者の日常的な移動手段  
(高齢でも自分で運転せざるを得ない状況)



回答者のデマンド交通利用意向

櫛引地域デマンド交通ルート素案(交通事業者との事前協議用素案)



凡例	
宝谷線 往路、復路(午前・午後各1便)	—————
梳代線 往路、復路(午前・午後各1便)	—————
松根線代替線 往路(朝)1便 復路(夕)1便	- - - - -
3路線共通部分	—————

- 市中心部へは、路線バスとの乗換ポイントで乗り継いでもらう。
- 公共施設、医療機関、金融機関、商業集積地に乗降ポイント(停留所)を設ける。
- 路線バスの「落合線」と重複するルート上では、乗降ポイント以外での乗降は行わない。
- 松根線代替線は、月曜から金曜まで運行する。
- 宝谷線と梳代線は、それぞれ奇数日、偶数日に分け、月曜から金曜間で運行する。



# 「でわ宝」で地域おこしプロジェクト事業 【新規】

## 概要

宝谷地区に配置されていた地域おこし協力隊員（H30.8.1～のR2.9.30）の退任に伴い、協力隊員の活動成果を生かしフォローアップすることで、商標登録した県産そば新品種「でわ宝」を核とした宝谷地区の地域活性化に向けた更なる取り組みを支援する。

## 現状と課題

【地域おこし協力隊の成果の一端】

- 県産そば新品種「山形BW5号」を「でわ宝」として商標登録（作付面積33haで県内最大の産地）
- 「でわ宝」を使用したお菓子の加工品、マスコットキャラクターなどの開発

【課題】

- 「でわ宝」や加工品の販売促進と情報発信、生産者やそば店従事者の高齢化など後継者が不足
- 地区内人口が26世帯88名にまで減少、高齢化率も52.3%となり住民同士の共助にも限界が見える

## 今後の対応

集落ビジョンに基づく取り組みの強化

キーワード：「つなぐ」

でわ宝のブランド化  
収益力向上  
後継者育成

情報発信の強化  
関係人口増加

ビジョンのブラッシュアップ  
集落の維持・活性化

## 具体的取組

### 「宝谷そば」のブランド化

目的：コミュニティビジネスによる収益力向上

- 「でわ宝」の直接販売の促進（玄そば・そば粉）
- そば関連加工品の魅力向上販路拡大
- そば店舗集客力向上の取り組み
- 持続可能な生産・販売力の確保 等

### 情報発信の強化

目的：関係人口の増加、集客・販売力の向上

- HP, SNSでの情報発信の強化
- プロモーションの実施
- 移住定住事業との連携

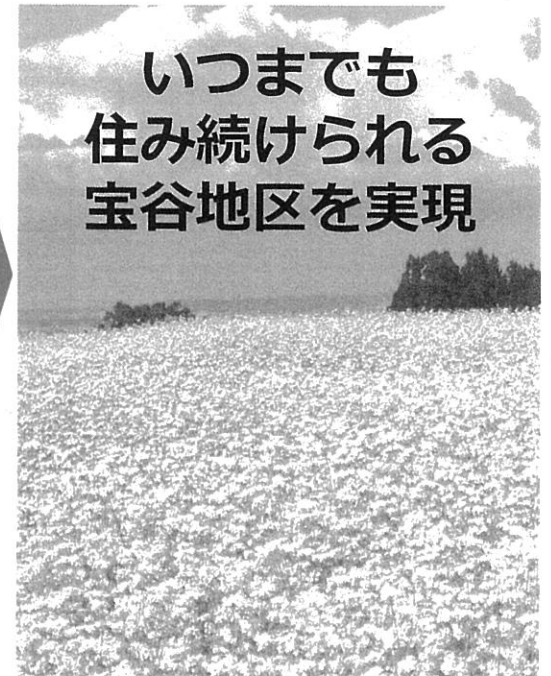
### 集落ビジョンのブラッシュアップ

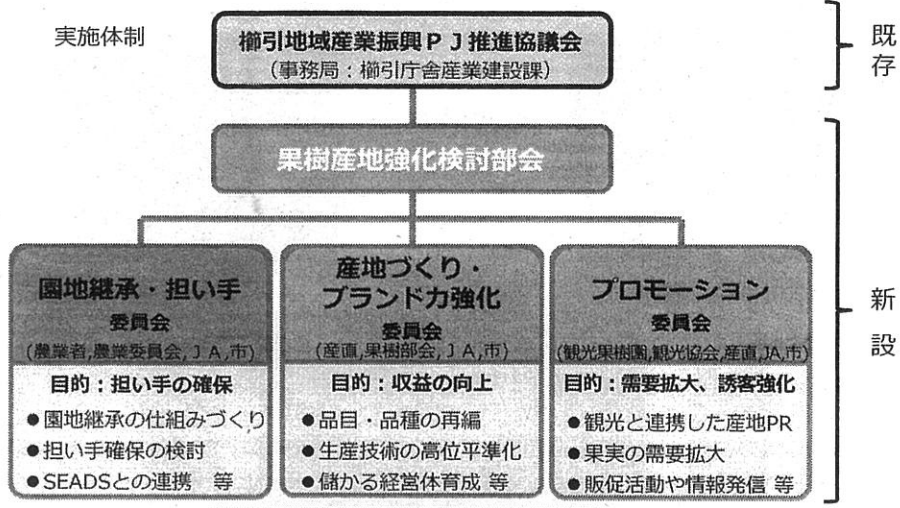

目的：地区内資源の活用による地域活性化、集落の維持


- キャンプ場、宿泊施設、宝谷かぶ等、地域資源の活用（協力隊の取り組みの継続・強化）
- ビジョンの中間評価と、取り組み項目の選択と集中
- 職員アドバイザー制度の活用

補助事業として、集落ビジョン実現に向けた取り組みを支援（2年間）

いつまでも  
住み続けられる  
宝谷地区を実現



事業名	くしびきフルーツ振興プロジェクト事業	実施年度	R1～	事業種別	ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(1) フルーツの里づくり	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>・櫛引地域は庄内を代表する果樹産地であるが、生産者の高齢化に伴う離農や規模縮小により販売を目的としない樹園地が増加傾向にある。</p> <p>・水稲との複合経営による少量多品目の果樹生産が特色だが、少量ゆえにブランド化の難しさがある。</p> <p>・果樹農家の担い手確保のためには、生産基盤の強化とともに果樹栽培が経営的に魅力的であることが重要。</p> <p>・また、園地の維持・再生のためには、生産者、JA、産直、農業委員会等の関係機関が一体となって園地継承の仕組みを作っていくことが必要である。</p>		<p><b>具体的取組</b></p> <p>○ 既存の協議会内に検討部会（3つの委員会）を新設</p>  <p>実施体制</p> <p>櫛引地域産業振興PJ推進協議会 (事務局: 櫛引庁舎産業建設課)</p> <p>果樹産地強化検討部会</p> <p>園地継承・担い手委員会 (農業者, 農業委員会, JA, 市)</p> <p>産地づくり・ブランド力強化委員会 (産直, 果樹部会, JA, 市)</p> <p>プロモーション委員会 (観光果樹園, 観光協会, 産直, JA, 市)</p> <p>目的: 担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 園地継承の仕組みづくり</li> <li>● 担い手確保の検討</li> <li>● SEADSとの連携 等</li> </ul> <p>目的: 収益の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 品目・品種の再編</li> <li>● 生産技術の高位平準化</li> <li>● 儲かる経営体育成 等</li> </ul> <p>目的: 需要拡大、誘客強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光と連携した産地PR</li> <li>● 果実の需要拡大</li> <li>● 販促活動や情報発信 等</li> </ul>			
事業目的					
<p>(1) 果樹担い手の育成確保と樹園地継承システムの構築</p> <p>(2) 需要に応える産地づくり</p> <p>(3) ブランド力の強化による農家所得の向上</p> <p>(4) プロモーションによる産地のPR</p>					
事業内容					
<p>・櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会に果樹産地強化のための検討部会を新設し、関係団体を構成員として果樹産地の振興に向けた検討を行う。</p> <p>・生産者の意識づくりやプロモーション活動を検討部会による検討と並行して実施する。</p> <p>・上記を「フルーツの里ブランド化支援事業」により実施し、鶴岡市における果樹振興のモデルケースとするべく取り組む。</p> <p>[実施体制]</p> <p>・櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会が実施主体となり、フルーツの里ブランド化支援事業（補助事業）に取り組む。</p> <p>・協議会で「フルーツの里推進員」を雇用し、事業の推進を図る。 (雇用はR5年度まで継続の予定)</p> <p>・協議会の事務局は櫛引庁舎産業建設課に置く。</p> <p>※当初検討していた産直めぐり隣接地への果樹園整備についてはゼロベースへ戻すこととし、検討部会の中で産地PR等に必要な施設のあり方も含め検討していく。</p>		<p>果樹産地強化に向けた検討を行い、R3年度以降の予算に反映</p> <p>+</p> <p>その他の取組</p> <p>○ 生産・経営に対する意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修会・勉強会の開催</li> <li>● 先進地の視察</li> </ul> <p>各生産者の経営意識の醸成</p> <p>果樹産地の強化</p>  <p>[期待する効果]</p> <p>栽培技術の向上 → 品質・単収の向上 → ブランド力向上 → 農家所得の向上 → 果樹農家(担い手)の増加 → 樹園地の維持・再生 → 果樹産地の再興</p> <p>①観光果樹園入込者数 : (H29)18,258人⇒(R3)20,000人 +20%</p> <p>②果樹販売額(JA+産直めぐり) : (H29)318,000千円⇒(R3)350,000千円 +20%</p> <p>2020(R2)予算額 3,300 千円</p>			

事業名	都市農村交流促進事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		楡引地域振興計画での位置づけ	(2) 都市農村交流の推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>30年近くにわたる都市農村交流は、都市部に鶴岡ファンを多く輩出しており、今後も観光振興やグリーン・ツーリズムの推進、農産物の販路拡大など、多面的な活性化を一層図っていくために、よりステップアップした事業を実施していく必要がある。</p>					
事業目的					
<p>J A庄内たがわ青年部楡引支部が昭和61年から取り組んできた横浜市立青木小学校との交流は、農業への理解促進をはじめ、楡引南小学校との相互交流や地域農産物の販売、学校給食での「つや姫」の使用などにつながってきた。また、修学旅行の受け入れは、民泊や農業体験、学校間交流など地域全体での取組みに発展している。J A青年部の取り組みを引き続き支援するほか、農家民宿の強化と支援により、交流による活性化や都市部での本市理解者の獲得、地域農産物の販路拡大と交流人口の拡大など多面的な活性化に資する。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流人口拡大の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行受け入れ（ホームステイ、農業体験、学校間交流）</li> </ul> </li> <li>○農家民宿グループ「黒川能の里の会」への研修支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特産物活用メニューの開発</li> </ul> </li> <li>○農産物等販路拡大支援事業補助金 <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作前授業、あおきふれあいまつり参加</li> </ul> </li> </ul>		<p style="text-align: center;">2020 (R2) 予算額 <span style="float: right;">274 千円</span></p>			

事業名	たらのきだいネイチャーパーク事業	実施年度	R元～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		楡引地域振興計画での位置づけ		(2) 都市農村交流の推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>「楡引たらのきだいスキー場」は、ファミリースキー場として多くのスキーヤーやスノーボーダーから絶大な支持を得ているが、全国的なスキーやスノーボード人気の落込みと共に入込み客数は全盛期の46%程度となった。</p> <p>「ほのかたらのきだい」は、地域資源活用型の農業構造改善施設として、また、楡引たらのきだいスキー場利用者への便益施設として、スキー場の厨房や食堂機能を有するロッジに宿泊施設や浴室などを増築して開設した。当初は順調に経営していたが、利用者数は年々減少し、夏場における現在の利用者はほぼ皆無となった。</p> <p>しかし、地域住民や施設利用者からは、両施設存続の強い要望があり、また、民間事業者からは、両施設と連携して交流人口やインバウンドの増加を図りたいという提案がある。</p>					
事業目的		<p>「楡引たらのきだいスキー場」と「ほのかたらのきだい」の機能を見直し、それぞれの施設の年間利用者を増加させること</p>			
事業内容		<p>○春夏秋季 両施設が連携して自然体験教室等が実施できる週末や期間限定の施設として整備 ・花畑、遊歩道、みはらし台の整備 ・自然体験学校などの実施</p> <p>○冬季 ファミリーや初心者向けスキー場を目指して整備 ・初心者コースやそり乗り場の整備 ・リフトの整備 ・カラフル照明の整備 ・レンタル物品の整備</p> <p>○民間活力活用の検討 自然体験施設等との連携や冬季インバウンドの受入れなど</p>			
		【期待される効果】		<p>○楡引たらのきだいスキー場利用者の増 (H29) 26,575人 ⇒ (R3) 35,000人</p> <p>○観光・グリーンツーリズム関連施設利用者の増 (H29) 748,731人 ⇒ (R10) 1,003,900人</p> <p>○施設経営の健全化、地域の活性化、既存施設の有効活用</p>	
		2020 (R2) 予算額		1,900 千円	

<b>事業名</b>	<b>鶴岡市南部地域広域観光二次交通網整備</b>	<b>実施年度</b>	R3～	<b>事業種別</b>	ハード・ソフト
		<b>楡引地域振興計画での位置づけ</b>		(3) 広域観光圏の形成	
<b>背景・課題・住民ニーズ</b>		<b>イメージ図・写真等</b>			
<p>(背景) 本市観光客数は微増傾向にあるが、加茂水族館 (558,800人/H29)、羽黒山 (632,300人/H29) の2強となっている。温泉地への宿泊客数も788,800人/年間と減少傾向にあり、広域型の滞在型観光の推進が必要。</p> <p>(課題) 特に、楡引地域においては、黒川能王祇会館 (2,575人/H29)、丸岡城跡公園 (2,033人/H29)、果樹観光園 (18,258人/H29) 等の高質な観光資源を有するが、そのポテンシャルを生かし切れていない。また観光客の2次交通確保が常に課題となっているが、民間の「庄内交通㈱」では採算性のため運行していないため、楡引、朝日等の南部地域での地域主体による2次交通運営が必須となっている。</p> <p>(住民ニーズ) 広域交通幹線網では、県道「たらのきだいい鶴岡線 (外内島～我老林)」及び農免道路「黒川2期」の施工により、東北横断自動車道の朝日IC、鶴岡ICへのアクセスが大幅に向上することで観光客の増大に期待している。(県への要望・調整事項)</p>					
<b>事業目的</b>					
<p>鶴岡市の日本遺産である「生まれ変わりの旅」、「サムライゆかりのシルク」による羽黒山80万観光客への観光資源の付加価値として、羽黒山と湯殿山の中継地点にある楡引地域の果樹と歴史資産の観光資源を提供し、また、金峰山や朝日地区即身仏等の黄金地区、朝日地域との広域観光圏の形成を図ることで、市南部地域での滞在型の着地型観光を発信する。</p>					
<b>事業内容</b>					
<p>市南部地域の観光基盤強化のため、観光商品の開発提供と交通基盤の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市南部広域観光の連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 市南部広域連携の観光商品の開発と提供、エージェントへの売り込み(着地型観光)</li> </ul> </li> <li>○地域主体の2次交通システム(空港・鶴岡駅～市南部観光拠点間の送迎) <ul style="list-style-type: none"> <li>2) 2次交通輸送システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>空港・鶴岡駅～交通ハブ～南部地区観光地と連携</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		<p style="text-align: right;">2020 (R2) 予算額</p> <p style="text-align: right;">— 千円</p>			

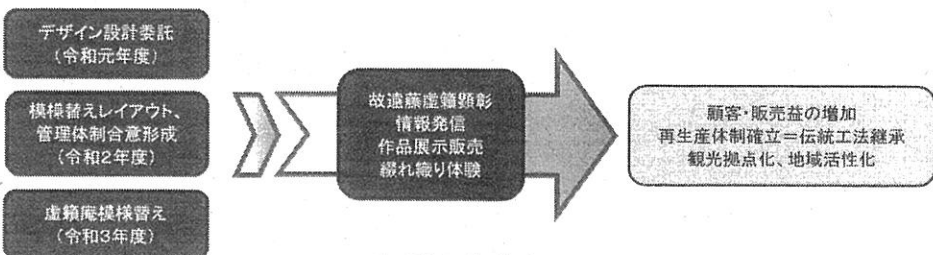


事業名	伝統芸能アーカイブ事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(4) 歴史文化の継承と活用促進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年もの間、連綿と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で、座加入の戸数および能役者が年々減少傾向にある。</p> <p>また、黒川能の囃子方は譜面ではなく口承による指導、稽古で、一子相伝に近い特有の伝承方法であることから、途絶えかけた演目もあるといわれ、正確に継承していくのが難しい。</p> <p>独特の謡や舞、所作、囃子が特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化により、人材の確保および充分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>これまで上演された演目や演奏が収録されているものがあるが、VHSやMD等媒体が古いため再生機器もなく、活用されていない状況である。</p>					
事業目的		<p>既存映像のデジタル化、加えて囃子方等の演奏を撮影収録し、デジタル音源として記録保存することで、伝統芸能の継承を図る。</p> <p>また、記録したDVD、CDを両座の能役者や、学校関係者等に貸出を行い、実際の稽古や伝統芸能の学習等に利活用する。</p>			
事業内容		<p>【R1、R2年度】</p> <p>○黒川能のVHS映像、謡等のMD音源をデジタル化（DVD化、CD化）し、稽古用、観賞用として整備し、利活用できる体制を構築する。 （VHS190本、MD50本）</p> <p>【R3年度】</p> <p>○既存の記録に加え、新たに謡、囃子方の鼓、笛および太鼓の演奏を録音し、デジタル音源として記録保存する。 （1回3曲×10回収録(上座・下座各5回) = 30曲)</p>			
		2020 (R2) 予算額		324 千円	

事業名	黒川能保存伝承支援事業	実施年度	H31～	事業種別	事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>黒川能は、黒川地区の2つの能座により500有余年の間、連綿と受け継がれてきたが、近年の人口減少や少子高齢化の影響で座加入の戸数および能役者、囃子方が年々減少傾向にある。</p> <p>また、独特の謡や舞、所作、囃子、着付けが特徴である黒川能を継承していくには長い年月を必要とするが、勤務形態や生活環境の変化、価値観の多様化、能役者の高齢化等により、人材の確保および十分な稽古の時間を確保するのも難しくなっており、保存伝承が危ぶまれている。</p> <p>そのため、若い世代に伝統芸能に誇りを持ってもらう活動とともに、文化資源を後世に継承していく仕組みづくりと、旅行者など黒川能の理解者の掘り起こしが必要となる。</p> <p>指定管理者である黒川能保存会は、主な収入を寄附金と公演収入としているが、近年は寄附金も減少傾向にあり、厳しい財政状況となっている。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>【保存伝承の課題】</b></p> <p>・人口減少 ・能役者の高齢化 ・生活環境、価値観の変化</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p><b>【継承の仕組みづくり】</b></p> <p>・人的交流 ・理解促進 ・後継者育成 ・事業の円滑な運営</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>			
事業目的					
<p>近年の少子高齢化、生活環境や価値観の多様化により、人材の確保等が難しくなっており、保存伝承が危ぶまれているため、地元櫛引東小学校の児童に対し現役能役者による直接指導を行い、継承の意識付けをし、後継者を育成する。</p> <p>体験用能楽器（30年度整備）と能装束を整備するなど、王祇会館を「見る」施設から「体験できる」施設にするとともに、春日神社との連携や体験メニューの開発をすすめ、黒川能への理解促進と来訪者の増加を図る。</p> <p>また、ふるさと寄附金の返礼品として、体験型返礼品のメニューに取り入れる。</p> <p>黒川能保存会の各種事業および管理運営体制を支援することで、継続的な保存伝承に寄与する。</p>		<div style="text-align: center;"> </div>			
事業内容					
<p>公益財団法人黒川能保存会が行う下記事業に対し補助を行い支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○黒川能保存伝習研究会 黒川能に造詣の深い識見者の講演会や、行事食アレンジレシピの検討、活用等。</li> <li>○後継者育成事業 現役能役者による演能および囃子方の指導と水焰の能等成果発表機会の創出。</li> <li>○王祇会館体験用装束整備事業（平成31年度） 入館者の体験用装束の整備。 30年度に整備した体験用能楽器とあわせ、体験メニューを提供。</li> <li>○黒川能保存会運営補助 黒川能保存会の運営事務全般の補助</li> </ul>		<div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> <p>2020 (R2) 予算額</p> <p>2,868 千円</p> </div>			

事業名	能楽青年交流事業	実施年度	H31～H33	事業種別	事業補助
		楡引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>現在、首都圏の大学の能楽サークルを対象に、能楽青年交流事業により、能楽合宿、地元若手能役者との交流を行っているが、その時限りの関わりとなっている。</p> <p>せっかく黒川に来てもらっても、短期間のため、黒川能と農業、地元住民の関わり、食文化等について、理解や体験があまり出来ずに終了してしまっている。</p> <p>能楽合宿に参加したことをきっかけにリピーターとなってもらい、黒川能への理解促進、農業や食文化等の体験をおし、長期的な交流へと発展させていきたい。</p>		<div style="text-align: center;"> <p><b>大学能楽サークル等の合宿 誘致・受入</b></p> </div>			
事業目的					
<p>現在取り組んでいる能楽青年交流事業は、首都圏の大学生を対象に、夏季休暇を利用した能楽合宿を行っているが、その時限りの交流になっているため、この事業を通年に拡大し、1年を通した能と農、住民生活の関わりを学んでもらい、能の理解促進、交流の継続につなげる。</p> <p>また、黒川能伝習館、王祇会館、農家民宿の利用促進、観光振興を図り、「能楽合宿地」という分野を確立する。</p> <p>首都圏の大学生や青年のみならず、地元のサークル等にも黒川能伝習館の能舞台を広く貸し出し、宿泊場所には農家民宿を斡旋する等既存施設の利活用、交流人口の増大を図る。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や青年層の能楽サークルを対象とした能楽合宿の誘致</li> <li>・地元の若手能役者や地元住民との交流</li> <li>・能楽合宿に参加した学生の「水焔の能」への出演依頼</li> <li>・地元農家での農業体験</li> <li>・王祇祭や蠟燭能の観能またはボランティア</li> <li>・地元サークル等への黒川能伝習館の能舞台の貸館や農家民宿の斡旋</li> </ul>					
2020(R2) 予算額				400 千円	


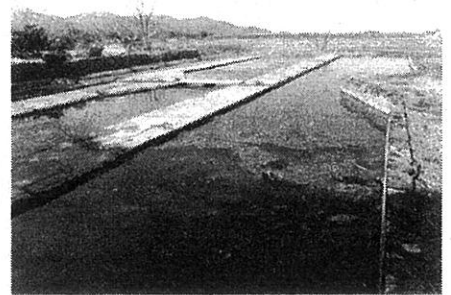

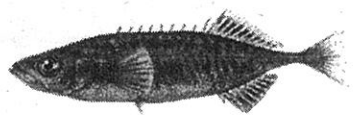


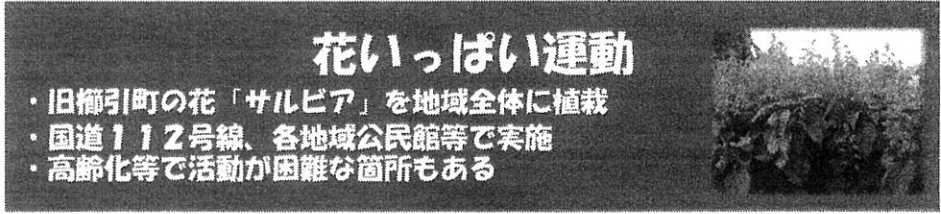
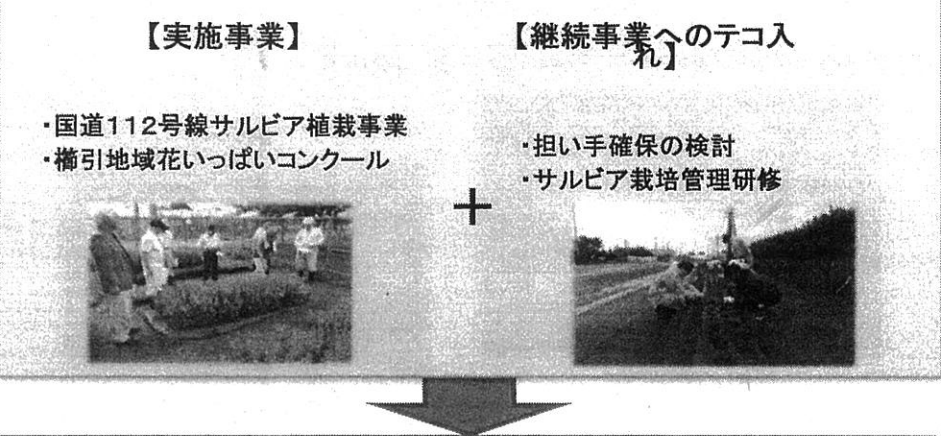
事業名	丸岡城跡環境整備事業	実施年度	R2	事業種別	ハード
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(4) 歴史文化の継承と活用促進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>○丸岡城跡史跡公園は、史跡復元の面的整備を平成21年度末に完了し、続けて、平成28年度にはガイダンス施設として武家住宅旧日向家を復元整備して、以降、2,000人を超える観光客を迎えている。</p> <p>○バス等での来訪やイベント開催時には、市道が狭く進入できなかつたり、駐車台数が少なく利活用に支障をきたしていることから新たな駐車場整備を地元自治会や顕彰団体から強く求められている。</p> <p>○マイクロバス以上の大型車がガイダンス施設に進入できるよう市道の拡幅を要望されているが、事業費が高額になるため、駐車場整備で支障事項の解決を図るもの。</p>					
事業目的					
<p>丸岡城跡史跡公園を会場としたイベント開催時には、市道が狭くマイクロバスが進入できなかつたり、現駐車場が狭いため来訪に支障をきたしている。</p> <p>新たに駐車場を整備し、大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車を容易にして、地域資源の更なる利活用を図りながら、観光振興、交流人口の拡大、地域の活性化に資するとともに、地元の顕彰活動を通じ地域コミュニティの充実を図る。</p>					
事業内容					
<p>大型バス等での来訪やイベント開催時の駐車に支障をきたしていることから、史跡公園近辺に駐車場を整備するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○用地買収 [950㎡]</li> <li>○分筆登記業務委託</li> <li>○測量設計業務委託</li> <li>○駐車場整備工事 [乗用車14台、大型バス2台]</li> </ul>					
		2020 (R2) 予算額		10,288 千円	




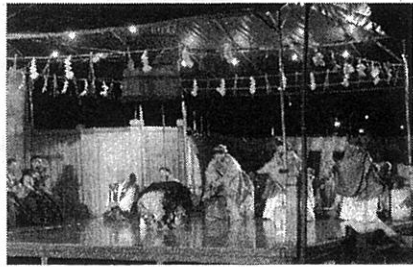
事業名	櫛引綴れ織り文化保存事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト・事業補助
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(4) 歴史文化の継承と活用促進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年に京都「石川つづれ」が旧櫛引町に設置した「土筆工房」を契機として、京都西陣織りの流れを汲み、櫛引地域の家庭内産業として栄え、現在も鶴岡地域、櫛引地域に残存。</li> <li>綴れ織り工房の虚籟庵は、歴史ある「つるおか絹物語」として世界へ発信。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>綴れ織り職人が少なく、後継者不在、職人の高齢化。</li> <li>天澤寺にある遠藤虚籟の糸塚、綴れ織り工房の虚籟庵の認知度が低い。</li> <li>作品製作に時間と手間がかかる。</li> <li>需要、販路が限られている。</li> <li>伝統工法を承継していく体制が確立されていない。</li> </ul>		 <p>デザイン設計委託 (令和元年度)</p> <p>模様替えレイアウト、 管理体制合意形成 (令和2年度)</p> <p>虚籟庵模様替え (令和3年度)</p> <p>故遠藤虚籟顕彰 情報発信 作品展示販売 綴れ織り体験</p> <p>顧客・販売益の増加 再生産体制確立＝伝統工法継承 観光拠点化、地域活性化</p> <p>&lt; 虚籟庵(羅漢閣) &gt;</p> 			
事業目的					
<p>虚籟庵の模様替えを一つの契機として、故遠藤虚籟の顕彰と櫛引綴れ織りに関する情報発信を通じ、再生産体制の確立と伝統工法の継承を図るとともに、周辺施設の天澤寺、丸岡城跡史跡公園、楽朋館等と一体となった伝統文化観光の拠点として地域経済の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客、リピーターの増加</li> <li>作品製作の再生産体制の確立による伝統工法の継承</li> <li>天澤寺や楽朋館等と一体となった観光拠点化、地域活性化</li> </ul>					
事業内容					
<ol style="list-style-type: none"> <li>虚籟庵、顕彰会等との合意形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>虚籟庵の模様替えに係る施設レイアウト検討</li> <li>施設管理体制の確立</li> </ul> </li> <li>情報発信 (20千円) <ul style="list-style-type: none"> <li>展示会やイベント等で活用する簡易パネル等の作成</li> <li>ホームページ等を活用した情報発信</li> <li>展示会、イベント等の開催</li> </ul> </li> <li>綴れ織り情報・資料収集 (218千円) <ul style="list-style-type: none"> <li>故遠藤虚籟ゆかりの地、綴れ織りが伝統的工芸品指定 千葉県館山市</li> </ul> </li> </ol>		 <p>&lt; 虚籟庵空間デザインイメージ &gt;</p>			
		2020 (R2) 予算額		238 千円	

事業名	櫛引地域デマンドバス導入事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動手段のない高齢者の増加への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許証返納者の増加 2019年度全国で60万件（前年比43%増、過去最高）</li> <li>・市運転免許返納者支援数 2019年度685件（前年比43.9%増）</li> </ul> </li> <li>●域内に公共交通空白地域が点在</li> <li>●スクールバス住民混乗の低迷 <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の通学が主目的で運行経路やダイヤに制限</li> </ul> </li> <li>●路線バス廃止の意向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・松根線廃止の意向がバス事業者より示される</li> <li>・来年度末で鶴岡南高校山添校が閉校</li> </ul> </li> </ul>					
事業目的					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動手段を持たない高齢者等の通院や買物等日常生活に不可欠な移動を支援</li> <li>●松根線廃止の代替機能を担う</li> </ul>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケート結果を参考にルート、乗降ポイント、ダイヤ等、素案の作成</li> <li>●バス事業者、タクシー事業者との事前調整</li> <li>●集落座談会にて事業内容の説明と意見の聞き取り</li> <li>●地域公共交通会議にて正式協議</li> <li>●制度の運営を担当する組織の立ち上げ</li> <li>●道路運送法の規定に基づく許可申請</li> <li>●試験運行</li> <li>●試験運行の課題整理と善後策の検討</li> <li>●本格運行（R03年度～）</li> </ul>					
		2020(R2) 予算額		2,351 千円	

事業名	くしびき若者未来創造事業	実施年度	H30～	事業種別	ソフト・事業補助
		楡引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>市町村合併により新市としての一体感は醸成されてきているが、旧楡引町を単位にまちづくりを推進して行こうとする若者の機運は低下してきているとも言われている。</p> <p>また、地域のリーダーが高齢化してきており、次世代への継承を図るため、地域のまちづくりをリードしていける若い人材を発掘・育成することが急務となっている。</p>		<p><b>イメージ図(素案)</b></p> <p><b>テーマ</b>          ○自分(たち)の活動や事業の「悩み」を共有し、解決方法のヒントを得よう          ○興味のあることを学んでみよう          ○自分(たち)でやってみたいことを実践してみよう</p> <p>これまで 地域の若者が、思いを共有する場がない。</p> <p>地域のプレイヤー (事業者・農業者等) 個人の活動</p> <p>くしびき こしやがてプロジェクト グループの活動</p> <p>くしびき! グループの活動</p> <p>そのほか次代を担うプレイヤー (NO-SIDE, etc.)</p> <p>強化したいことがあるけど、一人でやりきれぬかわからない          やりたいことがあるけれど、どういふ手法があるんだろう          今やっているものを、一緒にやってくれる人がいればなあ          気軽に参加できる場がほしいなあやー</p> <p>それぞれ単独で活動          口づなかりが薄い          情報共有できる「場」がない</p> <p>これから 集まって、互いの活動のヒントや新しい視点を見つける「場」として活用!</p> <p>こんなことがやってみたいけど、どんな方法があるかなあ。          こんなことに困っていて、何かしたいんだけどー          なんかやってみたいが</p> <p>〇〇が地域にあったら楽しいよね          今やっていることを、ほかの分野と掛け合わせたり出来ないかな?          こういう勉強がしたいのだけど、一緒にやりませんか?</p> <p>共有          学び          実践</p> <p>〇個々人のスキルアップ          〇各グループ活動を継続しながら、他のグループとの連携          〇人脈の形成と人材の発掘、新たな仲間(新グループの誕生など)</p> <p>新たな取り組み</p>			
事業目的					
<p>協働のまちづくり、地域の未来創造には、若者の英知と独創的アイデア、そして行動するエネルギーが不可欠であることから、楡引地域の若者による研修や交流等を通じて、地域のまちづくりを牽引していけるような人材の育成に寄与する。</p> <p>楡引地域では、まちづくり塾の活動を契機とした若者グループによる「こしやがてマルシェ」が定期的で開催されており地域内外から高い評価を得ているが、若者が地域のまちづくりに参画する機会をさらに創出するため、まちづくり塾や生涯学習センターと連携・協力しながら、地域のまちづくりを担うプレイヤーの発掘と育成を図って行く。</p>					
事業内容					
<p>楡引地域に在住・在勤する高校生からおおむね40代の若者による研修等の事業を実施し、参加者が実施することを想定した事業の検討を行う。</p> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕掛人養成講座への参加 5回 (楡引生涯学習センター主催)</li> <li>・仕掛人養成講座で検討された事業の実施 3月下旬→延期</li> <li>・先進地視察 3月予定 → 中止</li> </ul> <p>【令和2年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会 2回</li> <li>・グループ討論 5回</li> </ul> <p>(※新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期、開催調整中)</p>					
		2020(R2) 予算額		261 千円	

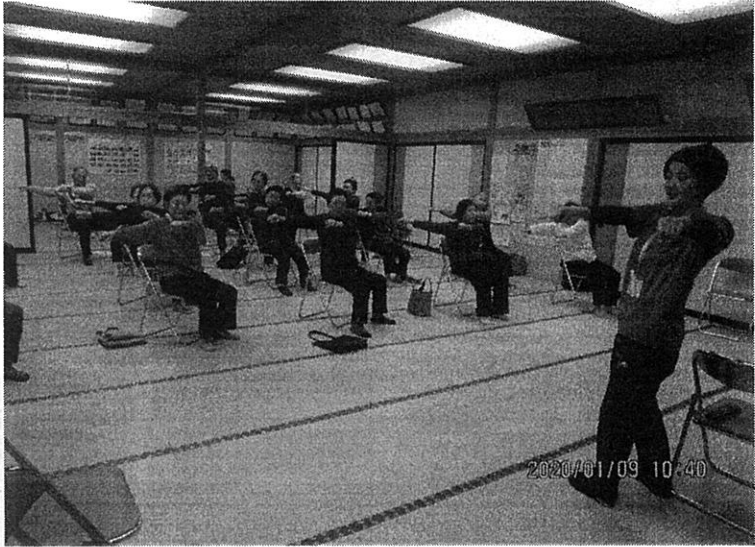
事業名	希少淡水魚保存事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		楡引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>希少淡水魚イバラトミヨの保存は、楡引町時代の平成6年から継続しているものである。</p> <p>当該イバラトミヨの生息池がある板井川地区では、平成20年に地元有志により「イバラトミヨを守る会」が設立され、地域ぐるみで希少淡水魚の保全に取り組んでいる。</p> <p>また、山形県では、レッドリストを改定し、当該イバラトミヨは準絶滅危惧種から絶滅危惧IB類に変更されている。</p> <p>以上のことから、希少種イバラトミヨの保全を継続する必要がある。</p>		 			
事業目的					
<p>絶滅危惧種である希少淡水魚（イバラトミヨ）の種の保存を図るとともに、地元組織による管理を通じ生態系保全や自然環境保護の意識高揚、地域コミュニティの醸成を図る。</p>		 			
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イバラトミヨ生息池借上</li> <li>・ポンプ設置用地借上</li> <li>・地下水汲み上げポンプの電気料負担</li> <li>・地元等と連携した環境学習会の開催</li> <li>・公共施設でイバラトミヨを展示するとともに学校等と連携した活動の実施</li> <li>・市HPにイバラトミヨのページを新規作成</li> </ul>					
		2020 (R2) 予算額			133 千円

事業名	花いっぱい運動で環境美化推進事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>・S53年花と緑の町推進会議が結成され、花いっぱい運動がスタート。S55年に櫛引町の花「サルビア」を制定し、各地区自治会に植栽したサルビアを審査する花いっぱいコンクールを開催。S59年から国道112号歩道にサルビアを植栽し現在まで継続している。</p> <p>・櫛引花と緑の会を結成し、市（補助金）、賛助金、地区自治会費を財源に事業を実施。</p> <p>・国道112号線の植栽花壇は、通称「サルビアロード」とよばれ、歩道植樹帯の設置によって交通事故を低減させる役割を果たすとともに、通行者に心のやすらぎを与えており、H20年には緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。</p> <p>・国土交通省からの支援を受け、下山添地区老人クラブを中心に賛助会員、市職員や鶴岡南高校山添校等ボランティアの協力により支えられてきたものであり、今後も継続していくためには行政の支援が必要不可欠である。</p> <p>・下山添地区老人クラブが国道花壇維持管理の中心を担っていたが、現在是对応できなくなったため当会の顧問を中心に実施しているが、高齢化や担い手不足が課題となっている。また、国道植栽にボランティア協力をいただいていた鶴岡南高校山添校が令和3年度をもって閉校されることにより、作業協力者の大幅な減少が懸念される。</p> <p>・今後も運動を継続していくためには、維持管理の担い手やボランティアの確保が必要である。</p>		 <p><b>花いっぱい運動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧櫛引町の花「サルビア」を地域全体に植栽</li> <li>・国道112号線、各地域公民館等で実施</li> <li>・高齢化等で活動が困難な箇所もある</li> </ul>			
事業目的		 <p><b>【実施事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道112号線サルビア植栽事業</li> <li>・櫛引地域花いっぱいコンクール</li> </ul> <p><b>【継続事業へのテコ入れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手確保の検討</li> <li>・サルビア栽培管理研修</li> </ul> <p><b>+</b></p>			
事業内容		<p>花づくりと緑化を積極的に推進し、環境を整え美しく住みよいまちづくりに貢献する。</p> <p><b>花いっぱい運動の継続により明るく 住みやすい地域へ</b></p>			
<p>・櫛引花と緑の会（事務局：櫛引庁舎総務企画課）が実施する、サルビアの植栽等費用に対して引き続き補助金を交付する。</p> <p>・20地区の参加による花いっぱい運動とコンクールの実施</p> <p>・国道112号四車線区間へのサルビア植栽と肥培管理</p>		<p>2020(R2) 予算額</p>			
				350 千円	

事業名	くしびき夏のイベント推進事業	実施年度	H31～	事業種別	ソフト
		楡引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>少子高齢化の進行や人口減少、就業構造の変化などの要因により、地域の連帯感の希薄化が懸念されていることから、地域住民や関係団体が連携・協力して賑わいを創出しながら、地域のまとまり・活力を維持して行く取組みが求められている。</p> <p>黒川能野外能楽「水焰の能」は、旧楡引町誕生30周年の記念事業の一環で開催したイベントで回数を重ねて楡引地域における夏の風物詩として定着している。</p>		<p style="text-align: center;"><b>くしびき夏まつり</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>伝統芸能の発表部門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>賑わい交流部門</p> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>水焰の能</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ステージ部門</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>黒川能 能二番と狂言一番、東小児童の舞囃子</p> </div> </div>			
事業目的					
<p>楡引地域における夏のイベント、黒川能野外能楽「水焰の能」の会場を活用しながら、地域住民や関係団体が連携・協力のもと、地域をあげた夏のイベント「くしびき夏まつり」を開催することで賑わいを創出し、地域のまとまり・魅力を高めるとともに、交流人口の拡大による人・もの・情報の交流をなお一層推進し、地域の活性化と発展につなげる。</p>					
事業内容					
<p>7月最終土曜日に開催している「野外能楽 水焰の能」と日程をリンクさせて、設置した会場を活かした「くしびき夏まつり」を夏の二大イベントとして開催する。「くしびき夏まつり」については、楡引地区最大の夏のイベントに定着してきており、今後も継続開催していくことを実行委員会において確認している。これまでの積み重ねに新たなアイデアを加えながら、老若男女が楽しく集い、さらに賑わいを創出するための事業となるよう支援を行う。開催にあたっては商工団体、農業団体、観光団体等により組織される実行委員会を、市が共催する形で運営補助金の拠出とあわせ人的支援も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○商業者等による展示販売、農業団体・産直組織による特産物や姉妹都市の特産品の紹介販売</li> <li>○子ども向けコーナーの設置（バルーンアート、バッテリーカー、縁日コーナー）</li> <li>○ステージアトラクションの実施（伝統芸能の発表、歌謡ショー）</li> </ul>					
		2020 (R2) 予算額		360 千円	

事業名	櫛引地域交通安全・防犯の日啓発事業	実施年度	H31	事業種別	ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>櫛引地域では1985年から、毎月一日を「町交通安全の日」と定め、地域住民や通過車両に交通安全を呼びかける目的で、町（市）で配布した黄色い小旗を家の入口や門柱に掲げて交通安全を啓発する運動を行っている。これは櫛引地域に深く浸透しており、地域独自の運動として現在まで継続しているものである。</p> <p>旗は最初の全戸配布から30年以上経過しており、各地区からは旗の老朽化や紛失の声も多数寄せられているほか、配布後に地域に住み始めた家庭には配布されていない、地区によって取り組み姿勢に差があるなどの課題がある。</p> <p>また、櫛引地域では夏の安全県民運動期間中や秋の交通安全運動期間において、立哨指導や「000(なしなしなし)作戦」などを鶴岡市防犯協会櫛引支部と連携して実施するなど、防犯活動にも積極的に取り組んでいる。</p>		  			
事業目的					
<p>交通事故・犯罪のない安全で安心な町を実現するため、これまでの「交通安全の日」の旗を新たに「交通安全・防犯の日」と改めて作成・配布するとともに、広報や音声告知放送などで改めて活動の趣旨を説明することで、櫛引地域の住民や通過車両に対して交通安全・防犯の意識を醸成する。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに防犯啓発の内容も加えた「交通安全・防犯の日」の旗を作成し、R1.10月末に櫛引地域に全戸配布。</li> <li>・啓発チラシ全戸配布</li> <li>・R1.10.20に行われた明るい地域づくり櫛引大会では小旗の贈呈式を行ったほか、大会宣言に小旗掲揚運動の推進による意識高揚を盛り込み、一層の運動推進を確認した。</li> <li>・毎月1日は音声告知放送にて周知を行い、庁舎前にも小旗を掲揚する。</li> <li>・R2年度以降は、小旗の補充・交換分を庁舎に保管し、問い合わせに対応するとともに、小旗掲揚運動を推進していく。</li> </ul>					
		2020(R2) 予算額		完了 千円	



事業名	楡引地域いきいき健康活動拠点運営への支援事業	実施年度	R2～	事業種別	ソフト
		楡引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>平成29年度までは、地区公民館等の施設を使用しながら概ね65歳以上の高齢者を対象に、語らいや交流、運動や健康づくりなどを通じて、閉じこもり・認知症などの予防と要介護状態にならないことを目的として、楡引地域の多くの地区でいきいき健康クラブ運営事業（介護予防事業）が実施されていた。</p> <p>現在は、介護保険法の改正に伴い、市全域で長寿介護課が所管する「地域介護予防活動支援事業」に移行し、年間を通して定期的に運動（体操）を取り入れることで、高齢者の基礎体力・筋力アップを図ることで介護予防の効果を高める内容に見直されている。</p> <p>このため、いきいき健康クラブ運営事業とは取り組み内容が大きく異なっているため、従来の事業を代替するには至っておらず、移行を断念し高齢者同士の交流や語らいなどの機会を失っている地区も一部ある。</p> <p>なお、住民自治総合交付金の見直しにより、地区の判断で自由に活動できる財源が多少なりとも交付されている。</p>		<p>◆ 高齢者を対象として関係機関や個人等が実施している様々な分野の講座メニューやその申込先等をわかりやすく一覧で整理・配布</p> <div data-bbox="1335 363 2063 528" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>健康づくり、介護予防、閉じこもり予防、生きがい・絆を深める活動</p> <p>体操・軽スポーツ・レクリエーション・創作・芸術・研修等</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div data-bbox="1335 568 2063 651" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高齢者が住む地区の中に、気軽に歩いて参加できる活動の場（活動拠点）の継続設置や新規開設へつなぐ</p> </div> <div data-bbox="1323 671 2074 1219" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>※ いきいき百歳体操講座（板井川地区）の様子</p>			
事業目的					
<p>高齢者の健康維持、生きがいつくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため、各種講座・研修を企画するにあたり参考になる講座メニューやその申込先をわかりやすく一覧にまとめたリストを作成・配布する。</p>					
事業内容					
<p>各種講座・研修を企画するにあたり参考になるリストを作成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①情報の収集</li> <li>②提供メニューの検討・照会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野・項目を整理して、照会内容の検討</li> <li>・照会先のリストアップ～照会</li> </ul> </li> <li>③リストの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師への掲載承諾を得る</li> <li>・リストの編集</li> </ul> </li> <li>④情報提供・事業啓発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区へリストを配布・説明</li> </ul> </li> </ol>		<p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域介護予防活動支援事業【長寿介護課】</li> <li>・いきいき百歳体操講座【長寿介護課】</li> <li>・生涯現役推進事業（なり元気塾）【市社協事業】</li> <li>・福祉活動支援事業（サロン活動）【市社協事業】</li> <li>・その他【地区単独事業】</li> </ul>			
		2020(R2)予算額		- 千円	

事業名	「空にかける階段」インフォメーション事業	実施年度	H31～	事業種別	ハード・ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	

背景・課題・住民ニーズ

(背景) 櫛引地域出身の世界的石像彫刻家「富樫実」(名誉市民)の「空にかける階段シリーズ」は、櫛引地域の富樫ロード(仮称)や櫛引庁舎を始め、市内では庄内空港、山形自動車道鶴岡IC、美咲町開発地、開運橋、千歳橋があり、国内外に多数設置されており、その芸術的評価は京都市文化功労賞、紺綬褒章等を受賞するなど権威の高いものである。現在、氏の木製作品は、櫛引庁舎に数多く展示され、公共施設や民間企業に貸し出しを行い、気軽に目にし触れられる展示を行っている。

(課題) 氏の作品については櫛引地域の各所に展示されているが、氏の人物像、功績、作品思想等の紹介が薄く地域住民より認知されていないという課題がある。

(住民ニーズ) 櫛引観光協会をはじめ地域の富樫支援者では、氏の功績を広く知らせ後世に伝え、また櫛引地域の芸術的シンボルとして「空にかける階段」を位置づけ、黒川能、丸岡城跡の観光資源に繋げたいという考えが以前よりある。

事業目的

○世界的彫刻家である富樫実氏(名誉市民)の「空にかける階段」作品を紹介するブースを拠点として整備するとともに、市内各所に点在する氏の作品を観て回遊できる仕組みを作り氏の功績を広く伝える。

事業内容

- 名称 「空にかける階段」インフォメーションブース(仮称)
- 設置場所 生涯学習センター(ロビー)
- 内容
  - ・作品紹介ブースの整備
  - ・氏の彫刻作品や作品思想の紹介パネルとyoutube映像の検討
  - ・市内各所に設置されている作品を回遊できる仕組みづくり。
  - ・拠点整備のための関係者懇談会の開催。

イメージ図・写真等

○作品展示箇所  
○スポットライト設置箇所

生涯学習センター

ホール、ロビー

木彫作品

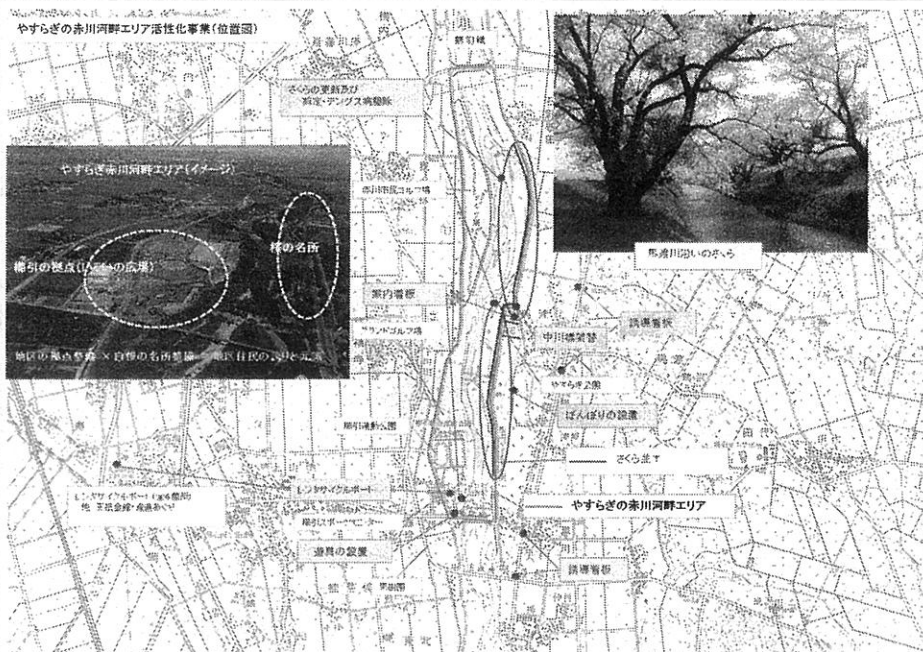
庄内空港エリア


黒川能

丸岡城跡

黒川能

2020(R2) 予算額	160 千円
--------------	--------

事業名	やすらぎの赤川河畔エリア活性化事業	実施年度	R3～	事業種別	ハード・ソフト
		櫛引地域振興計画での位置づけ	(5) 地域づくりの推進		
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>1. 子どもが、遊べる公園・環境が少ない。</p> <p>2. 年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として 整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。</p> <p>3. 桜開花時期、やすらぎ公園沿いにぼんぼり設置要望がある。</p> <p>4. 桜の手入れ不足の声 (テングス病駆除や大枝剪定)</p> <p>5. 桜の開花時期に必ず馬渡川付近への行き方についての問い合わせがあるが、道路標識が無いため、説明に苦慮する。</p>					
事業目的					
<p>多くの地域資源が集積する「やすらぎ赤川河畔エリア」を一体的にとらえ適切な管理と活性化を施すことで、交流人口を増やしにぎわいを創出する。</p> <p>また、スポーツ公園付近に遊具の新設、年齢問わず地区民の“いこいの広場”としてのスポーツセンター付近を拠点施設として整備し地域住民の誇りと元気を醸成するものである。</p>					
事業内容					
<p>やすらぎの赤川河畔エリアは住民いこいの場の拠点化</p> <p>①周辺施設との赤川周遊(右岸含む)が出来るレンタサイクルの配置。 (サイクルポート: 4箇所: スポーツセンター、産直あぐり、王祇会館、丸岡城跡)</p> <p>②誘導案内看板4基(馬渡川の桜づつみへのアクセス)</p> <p>③利用案内看板2基(ジョギング等の案内用)</p> <p>④桜並木の適切な管理 国、地元、市の三者協定による計画的更新、テングス病駆除・大枝剪定</p> <p>⑤ちびっこ広場に遊具設置 「赤川かわまちづくり計画」で整備検討</p>					
		2020(R2) 予算額		— 千円	

事業名	山添校跡地の子育て活用構想	実施年度	R3～	事業種別	ハード
		櫛引地域振興計画での位置づけ		(5) 地域づくりの推進	
背景・課題・住民ニーズ		イメージ図・写真等			
<p>現在、櫛引内の子どもや家族連れの遊び場は、各地区広場、運動公園等があるが、遊具の設置状況としては小型のものがほとんどで、複合遊具・大型遊具・アスレチック遊具がない状況である。子育て世代やまちづくり塾メンバー、地域振興懇談会委員など多方面より、地域に大型遊具のある遊び場が無いとの声が寄せられ、そのニーズは高い。また、地域振興懇談会の中で鶴岡南高等学校山添校の閉校後の跡地利用を今から考えるべきという意見が出されている。</p> <p>櫛引地域の公共施設や文教施設が集中している中心地に立地されており、県において有効な活用を考えるよう要望するとともに、活用予定がない場合は、傷まないうちに継続的な利活用を構想するもの。</p> <p>なお、校舎棟に関しては空調設備がすでに故障しており、閉校後に有効に活用していくには多額の修繕費用を要し、老朽度合を鑑みると今後の利活用には慎重な検討が必要。</p>					
事業目的					
<p>櫛引地域の中心地において巨大な遊休施設とならないように調整を図る。</p> <p>市で活用することになった場合には、若手世代等のニーズを考慮し、子育てにかかる環境整備の一環として、グラウンド及び体育館棟を再整備し、安全に遊ぶ場・親子でふれ合える場を創出し、子どもの健全育成に寄与するとともに、子育て世代や祖父母世代が集い交流することにより地域コミュニティの醸成につなげる。もって少子化への歯止めの一助とする。</p> <p>校舎棟活用については、大きな投資とならないような利用方法を探る。</p>					
事業内容					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○県へ活用等について意向確認をする。</li> <li>○市で活用することになった場合は、跡地の活用方法について構想を検討する。</li> <li>○想定される活用法 <ul style="list-style-type: none"> <li>①体育館・武道場棟の活用検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>元々手狭な櫛引西部学童保育所を移転するとともに、放課後・休日にも開放する利用ができないかを検討する。</li> <li>また、平日夜間は有料一般開放を合わせて検討する。</li> </ul> </li> <li>②グラウンドの活用検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 屋外人工芝運動場</li> <li>2. 大型・コンビネーション遊具等</li> <li>3. 屋外トイレ、水飲み場、外構（駐車場）</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○構想が実現できる見込みとなった場合は、各担当部署での事業実施とする。</li> </ul>		<p style="text-align: right;">2020 (R2) 予算額      0      千円</p>			